



36:20 彼らは巻き物を書記エリシャマの部屋に置き、庭の王のところに行ってこのすべての事を王に報告した。

36:21 王はエフディに、その巻き物を取りに行かせたので、彼はそれを書記エリシャマの部屋から取って来た。エフディはそれを、王と王のかたわらに立つすべての首長たちに読んで聞かせた。

36:22 第九の月であったので、王は冬の家の座に着いていた。彼の前には暖炉の火が燃えていた。

36:23 エフディが三、四段を読むごとに、王は書記の小刀でそれを裂いては、暖炉の火に投げ入れ、ついに、暖炉の火で巻き物全部を焼き尽くした。

36:24 王も、彼のすべての家来たちも、これらのすべてのことばを聞きながら、恐れようともせず、衣を裂こうともしなかった。

36:25 エルナタンとデラヤとゲマルヤは、巻き物を焼かないように、王に願ったが、王は聞き入れなかった。

36:26 王は、王子エラフメエルと、アズリエルの子セラヤと、アブデレルの子シェレムヤに、書記バルクと預言者エレミヤを捕えるよう命じたが、主はふたりを隠された。

36:27 王が、あの巻き物、バルクがエレミヤの口述で書きしるしたことを焼いて後、エレミヤに次のような主のことばがあった。

36:28 「あなたは再びもう一つの巻き物を取り、ユダの王エホヤキムが焼いた先の巻き物にあった先のことを残らず、それに書きしるせ。

36:29 ユダの王エホヤキムについてはこう言

え。主はこう仰せられる。あなたはこの巻き物を焼いて言った。『あなたはなぜ、バビロンの王は必ず来てこの国を滅ぼし、ここから人間も家畜も絶やすと書いたのか。』と。

36:30 それゆえ、主はユダの王エホヤキムについてこう仰せられる。彼には、ダビデの王座に着く者がなくなり、彼のしかばねは捨てられて、昼は暑さに、夜は寒さにさらされる。

36:31 わたしは、彼とその子孫、その家来たちを、彼らの咎のゆえに罰し、彼らとエルサレムの住民とユダの人々に、彼らが聞かなかったが、わたしが彼らに告げたあの上すべてのわざわいをもたらす。」

36:32 エレミヤは、もう一つの巻き物を取り、それをネリヤの子、書記バルクに与えた。彼はエレミヤの口述により、ユダの王エホヤキムが火で焼いたあの書物のことを残らず書きしるした。さらにこれと同じような多くのことばもそれに書き加えた。

王エホヤキムは戒められるべき主のことばを無視して焼いてしまいました。その暖炉は彼を彼を暖めるものであり、彼の安泰を象徴しているようです。彼は自分が安泰なので、戒めなど聞く必要がないと思われたのでしょうか。しかし、皮肉なことに、彼は「寒さにさらされる」こととなります。自分のことしか考えない者は、安泰であれば主のことばに従いません。しかし主を愛する者は、安泰であることを主に感謝して、喜んで従います。そのような者となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

